

イチジクの地域ブランド力向上

要約

- ・大和郡山市産イチジクの販路開拓と取り引き単価の引き上げが課題。
- ・首都圏市場へ出荷する体制の整備を推進。
- ・少量パックでの出荷（規格の見直し）を導入し、販売強化。
- ・県内向け産地PRのため、飲食店等に加工品やメニュー開発の試作依頼。

現状(背景)と課題

- ・大和郡山市は、奈良県のイチジク（全国7位の生産量）の約9割を生産
- ・出荷先は近隣府県と直売主体、取り引き単価低調
- ・配送料補助を活用して首都圏へ出荷(H28・H29)
- ・果実が柔らかく傷みやすい
- ・大和郡山市産イチジクの知名度不足

目標

- ・販路開拓と定着
- ・取り引き単価引き上げ
- ・配送料の補助なしで首都圏へ出荷
- ・高品質果実の安定出荷
- ・地元および首都圏でイチジクのPR強化

活動内容（対象：西方無花果出荷組合、イチジク生産者）

- ・首都圏への出荷を継続できる出荷体制の確立にむけて、関係機関も含めて打ち合わせを実施。
- ・JAと連携し、少量パックの導入に向けて、パック詰め作業の検討会を実施。
- ・大和郡山市内の飲食店等に地元産イチジクのサンプルを提供し、商品の試作を依頼。

成果

- ・平成30年度、配送料の補助なしで昨年度と同等量を首都圏（大田市場）へ出荷。（H29:1,410kg → H30:1,434kg）。
- ・少量パック（旧：500g → 新：400g）を導入し、kg単価上昇（前年比108%）と出荷パック数増加（前年比127%）を達成。
- ・4飲食店にて新商品開発のための試作を実施。うち1店が商品化し販売。



首都圏出荷用のイチジク



パック詰め作業の検討会



試作品（イチジクタルト）

北部農林振興事務所 農林普及課
担当：農産物ブランド推進第一係 辻 章宏
担い手・農地マネジメント係 藤本 まなみ
チャレンジ品目支援事業

普及活動のポイント

- 関係機関と連携し、それぞれの役割分担の明確化と情報共有を密にすることで、首都圏出荷に取り組む出荷組合に対して、効率的に支援。
- 少量パック導入を円滑に進めるため、生産者や関係機関に対して、正確な情報収集と情報発信。
- 関係機関と連携して、加工品試作の依頼と生産者への活動報告。

対象の変化

- 農産物取扱規模日本一の大田市場で、出荷果実の品質を高く評価され、生産者の自信向上。
- 少量パックでの出荷が有利販売につながり、生産者の生産意欲向上。

対象者からのコメント

- 「首都圏市場へのお荷により、さらなる取り引き単価の引き上げを期待する」
- 「少量パックの導入により、生産者の所得の向上につながった」
- 「産地のイチジクの認知度を高めて、需要の拡大を図りたい」

これからの活動ビジョン

- 今後もイチジク生産者および出荷組合に対して、継続して技術指導および情報発信を行う。出荷量の増加と取り引き単価の引き上げにむけて、関係機関（JA 郡山営農経済センター、農業水産振興課、マーケティング課）と連携しながら支援していく。
- 青果物と加工品の両面からイチジクのPRを支援することで、産地の活性化を図る。

活動体制

